水援隊便り
菊池川流域同盟　和水町水援隊長　平　晋一郎

環境について
みなさんもう一度真剣に考えてみませんか？

# Save The Kikuchi River

## 浅

瀬の砂地の上にじっとしているカマツカはなかなか見つけることができません。徹底した保護色で、カマツカの背側の模様は砂地の色とほとんど区別がつきません。

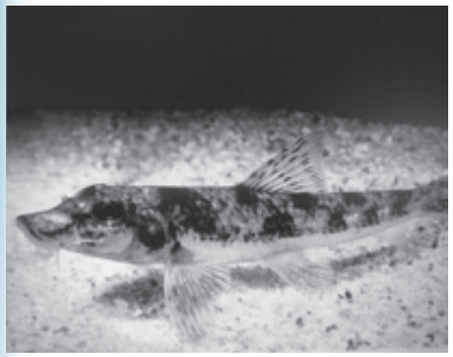
コイ目コイ科カマツカ属カマツカ。琵琶湖でカマツカ、カワギス（大阪）キス（長野）カマスカ（大分）スナムグリ（東京）その他種々な呼び名があります。体系がほぼ円筒形で、体系をかまの柄に見立ててこの名がついたと言われています。腹側はめったに見せませんが、たまに斜めに向いた時キラリと光ることがあります。腹側にはうろこがありません。目は上の高い位置にあり口ひげが1対あります。口は腹側にあって筒状に伸ばすことができるので砂地を這い回って餌をあさるのに都合よくできています。肉食性で胸びれをうまく使って水底の砂をかき分け、口を突き出して水中昆虫や幼虫などの小動物を砂と一緒に吸い込み、不要な砂はえらの孔から砂だけを吹き出します。それで兵庫県ではスナフキという所があります。

体長は20センチほどになりますが以前は25センチもあるようなものを見たことがあります。平野川の菊池川への合流点で、昔の江栗の舟着場跡からカマツカの大物やハエ、イダ、ナマズなど釣ったことがありますが最近あまり大きいのはかからないようです。

分布域は秋田県、岩手県以北を除く日本各地と朝鮮、中国北部と広く分布します。水のきれいな砂地を好み、河川の中流域から下流域、湖畔の砂地などに生息します。以前は江栗の対岸の竈門側のきれいな浅瀬を歩いていると、砂地の上にじっと静止しているのや、砂の中に潜り込んで顔だけ砂から出してあたりの様子を伺ったりしているのを良く見かけたものです。水質の汚染と河川工事による砂地の減少のために、個体数が極端に少なくなりましたが最近また次第に増えてきたような気がします。昨年の秋、水援隊では和水町内の菊池川の支流を巡回して魚の調査をした時に日平川の下流の今泉あたりだったと思いますが体長10センチほどのカマツカが30匹程群れをなして浅い砂地を這うように緩やかな流れをさかのぼっているのを見ました。数が減っているのを心配している時だけにほっと一安心しました。カマツカはきれいな環境を好むので、日平川のような清水で繁殖しているのではないかと考えられます。

産卵期は5～6月で夕方から夜にかけて産卵して一週間で孵化します。子どもは小さいながらも親の形と変わりません。雌雄の差もありません。淡水魚では代表的な底もので、憶病でおとなしく、驚いたり外敵が現れたりすると砂に潜り、目だけ出して身を守ります。そこからスナムグリとかスナモグリと言われますが、海のキスに似ているのでカワギスとも言われます。水槽で飼育するときはあまり動きの早いハエとかシビンチャなどよりもシマドジョウのようなおとなしい魚がよいとも思います。砂を1センチほど底に敷きますがカマツカは砂を吸い込んでえらから出しますので浄化の働きもする掃除屋さんの役目もします。

食用としては淡白な白身の魚で塩焼き、煮付け、甘露煮、天ぷらなどでおいしくいただけます。大阪ではレッドリストに上げられています。





歴史調査の楽しみ方

# 志口永城跡 2

大田幸博
（元・菊水町史編纂委員会副委員長）

この城跡は、志口永・丘陵地の張り出し部分に築城されています。先月号で概略を取り上げました様に、大変に特徴のある城跡です。今回は土橋個所を説明します。

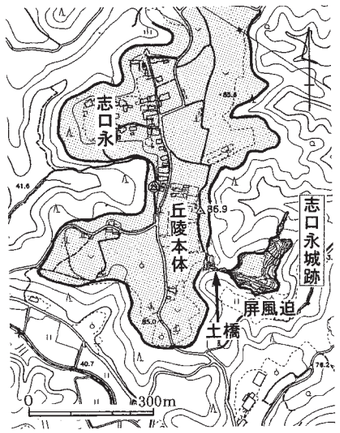
丘陵本体と、城跡（丘陵の張り出し部分）をつなぐのは「痩せ馬の背中」の様な細長い鞍部地形です。とても珍しい形で通路のようです。丘陵本体から小谷に下り、途中から登りに転じて城跡へ至ります。南北両側から小谷が挟み込んでおり、「屏風迫」と呼ばれるのもうなづけます。城内への出入り口はここだけに限られます。

丘陵本体から下る湾曲した坂道には、南北両側に3段ずつの小段があります。法面は削り落されて、ここも堅い守りになっています。

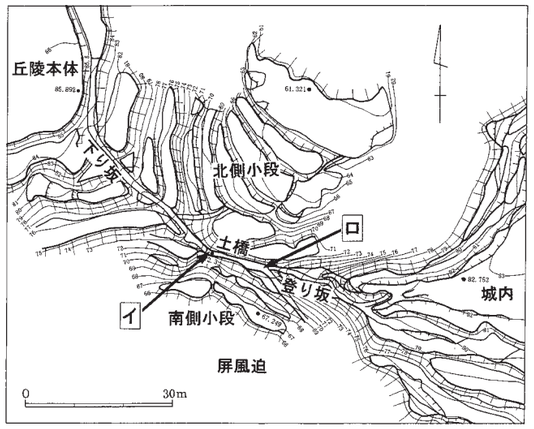
土橋が始まる個所はイ点で、丘陵本体とは14mの高低差があります。土橋は最も低い所で、標高72・3m・幅1m弱・長さ13・5mの規模になります。元々、細長い鞍部地形を、両脇からさらに削り落してあります。県内城跡で最高クラスの土橋です。

土橋の両脇は、南北で地形に大きな違いがあります。急傾斜の南側は3段（2段まで測量終了）の小段に留まり、緩傾斜の北側は6段を数えます。南下が城の外側で、北下が内側になりますので、理に適った造成です。

土橋は、標高73mのロ点から、登りに転じます。それから丘頂域の標高82mのラインまで急な登り坂になりますが、途中で南側肩部が急斜面の所もあり、歩行に注意が必要なほどです。登り坂の両脇にも、2段ずつの小段があります。この様に、土橋一帯は、志口永城跡の生命線として、それに見合う造りになっています。



城跡位置図



土橋個所の測量図

城跡は、栗畑とブドウ畑の先にありますが、
杉林に隠れて、全く見えません。

丘陵本体側から見た土橋
（調査員は土橋の手前に立っています）